

アクティブ・ラーニングに 効果的に取り組むための学生の心得



宮崎国際大学 国際教養学部

(初版：2019 年 3 月 31 日発行)



宮崎国際大学
Miyazaki International College



皆さんこんにちは。 宮崎国際大学 国際教養学部へようこそ！

国際教養学部では、全ての授業にアクティブ・ラーニングが取り入れられています。アクティブ・ラーニングとはその名の通り、学生が自発的に授業に参加し、学ぶということです。アクティブ・ラーニングの授業に主体的に参加することで、本学での学びが更に有意義になります。

この冊子は、皆さんが本学でのアクティブ・ラーニングの授業から最大限の学修成果が得られるよう、私たち学生の経験や失敗談を基に作成しました。この冊子を読むことで、本学で取り入れられているアクティブ・ラーニングの様々な手法に対する効果的な取組方法を知ることができます。また、アクティブ・ラーニングの各手法に取り組んだ成果（身につく英語力やその他の学修効果）もまとめました。本冊子を読むことで、授業で「何をどうすれば良いか」が明確になり、より主体的に授業に臨めるようになります。

本学では、このアクティブ・ラーニングがとても重要です。よりアクティブに学ぶために、どの授業でも「Can I ask a question?」というフレーズを使って、先生やクラスメイトに質問するよう心がけましょう。そうすることで、授業中だけでなく、いつの間にか「I think～」と意見を述べることができる自分になれます。宮崎国際大学のアクティブ・ラーニングの授業を受ける私たちだからこそ、自ら考え、発言し、意欲的に授業に参加することで、英語力に留まらない学修成果を身に付け、グローバル化された社会で活躍することができます。

四年間を通して多くの学修成果が得られるように頑張りましょう！

藤山 佳菜子

冊子作成：AP 学生グループ

国際教養学部 藤山 佳菜子

入佐 加寿真

宮本 啓太郎

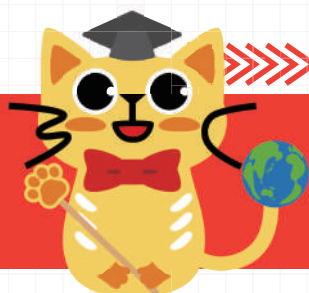
舩木 那奈美

個人プレゼンテーション

個人でクラス全体に対して発表すること。プレゼンテーションスライドやポスターを作る場合もある。発表を聴く側が質問をすることに発表者が答える形で進められるリバーシ・プレゼンテーションが行われることもある。発表者は、聞き手から質問を上手に引き出す必要もある。

	英語力への効果   	期待される学修成果  知識・理解 コミュニケーション能力 情報リテラシー ICT リテラシー 論理的思考力
---	---	---

授業手順	予想される困難	対処法
1 テーマを選定する。 先生がテーマを発表する。 例：テーマ「二国間の問題」 日本、中国間の領土問題（魚釣島等）についての発表にする。	▲自分が発表するテーマが決まらない。	・自分の興味のある事柄や、情報が集めやすいような事柄からテーマを決める。担当教員から助言をもらう。例：領土問題とは何か。その原因は何か。 ・書きたい事を箇条書きする。
2 資料を集める。 資料を集める。構成を練る。	▲発表内容に適した資料の集め方が分からない。	・プレゼンの内容を考える。 1. 対象と目的、伝えたいことを明確にする。 2. プレゼンの流れを考える。 3. それに沿った資料集めをする。 ・授業中にプレゼンの材料になるような情報をメモする。
3 スライドを作成する。 パワーポイントを使って、約 10 ページのスライドを作成する。トピック、導入、本題、結論をスライドにまとめる。	▲スライド作成に時間がかかる。	・構成（トピック、導入、本題、結論）を考える。 ・スライド 10 枚のどのページに何を記載するか予め表を作ってみる。 ・プレゼン本番を見据えて、資料化、言語化していく。伝え方を工夫しながら仕上げていく。
4 発表の練習をする。 本番に備えてパワーポイントを使って練習を繰り返す。	▲・制限時間内に発表が終わらない。 ・英語での発表に慣れない。	・発表内容を暗記して、時間を計って繰り返し練習する。スピーキング力も上がる。 ・1人で練習した後、他の人に聞いてもらう。
5 発表本番 当日、クラスに向けて、二国間の問題について発表する。	▲・原稿を見てしまう。 ・アイコンタクトがとれない。声が小さい。 ・緊張で早口になってしまう。	・繰り返し練習して、内容を覚える。 ・出来る限り、複数の人にプレゼンを聞いてもらう。 ・時間配分を決めて、ペースを把握しておく。時間を計って繰り返し練習する。



ワンポイント！

- 発表内容をしっかりと理解して、暗記することで、スピーキング力も上がる。
- 本番前にクラスメイトの前で繰り返し練習すると、本番での緊張を緩和させることができ、自信を持って発表できるようになる。

グループ・プレゼンテーション

3～5人のグループで、プレゼンテーションを準備し、グループやクラス全体に対して発表する。パワーポイントスライドやポスターを作る場合もある。発表はグループで実施する。



英語力への効果



期待される学修成果



授業手順

予想される困難

対処法

1 グループでテーマを話し合って決める。

テーマは先生から与えられる場合と、グループで決める場合がある。
例：テーマ「地球温暖化問題と私たちができること。」

- ・自分達がテーマの何について発表したいか意見が多様でまとまらない。
- ・話合いに積極的に参加しない学生がいる。

- ・決まらない場合は多数決をとる。
- ・各自意見を述べてもらう。

2 発表内容と役割を決める。

プレゼンに含む細かい内容を決める。1. 地球温暖化の定義 2. 地球温暖化の原因 3. 私たちが日ごろからできる対策など、どこを誰が担当・作成し、発表するのかを話し合って決める。

- ・役割が決まらない。
- ・役割によって仕事量に偏りが出る。

- ・全員が役割を持つ。
- ・自分の担当外の内容も把握し、一緒に取り組む。

3 資料を集める。

プレゼンに必要な温暖化に関する詳しい内容についてインターネット・本から資料を探す。

- ・発表内容に適した資料の集め方が分からない。

- ・グループ内で分担して資料集めをする。
- ・個人プレゼンと同様に、伝えたいことに沿った資料を集める。

4 スライドを作成する。

パワーポイントを使って、約 15 ページのスライドを作成する。担当別にするときは、1人3～4ページを目安に作成する。

- ・スライド作成に時間がかかる。

- ・まず、全てのスライドを先に作成し、後から、個々のスライドを充実させる。

5 発表の練習をする。

グループで発表の練習する日時を決め、発表の練習を繰り返す。

- ・メンバーの日程が合わず、発表の練習が上手くいかない。

- ・前もって、授業外で集合できる日時を決めておく。

6 発表本番

当日、クラスに向けて発表する。

- ・原稿を見てしまう。
- ・スムーズに進まない。

- ・原稿を見ずに発表する練習を繰り返す。
- ・出来る限り、複数の人にプレゼンを聞いてもらう。



ワンポイント！

1. 本番でスムーズに発表するには、グループで集まる時間を十分に取し、繰り返し練習する。
2. 全員がプレゼンテーション全体を把握しておくことで、本番でつまづいた時に、全員がリーダーシップを持って、対処できる。

ファシリテートされたディスカッション

学生1人がファシリテーターとなり、他の学生は、割り当てられた役割を担当し、ファシリテーターの指示に従いディスカッションを行う。



英語力への効果



期待される学修成果

プレゼン
テーション
能力

論理的思考力

チームワーク

想像力

理解力

主体性

授業手順

予想される困難

対処法

1 ディスカッションでの役割を理解する。

先生から、環境問題の改善方法についてのディスカッションのタスクを与えられ、役割分担表（ファシリテーター、タイムキーパー、ノートテーカー）が配布される。

▲・テーマが難しい。
・ディスカッションを進める際、どの役割がどこで必要なのか分からない。

・テーマが難しい場合は、グループ内でテーマに関して知っていることを相談し合う。
・役割を予め理解する。それでも分からない場合は、先生に質問する。

2 ファシリテーターを立候補・推薦で決める。

初めに、グループ内でディスカッションを進めるためのファシリテーターを決める。

▲・ファシリテーターが決まらない。（立候補者がいない）

・英語を話す良い機会と捉え、率先してファシリテーターになる。それでも決まらない場合はじゃんけんで決める。

3 ファシリテーター以外の役割を話し合って決める。

ファシリテーター以外の役割（タイムキーパー、ノートテーカーなど）を話し合って決める。

▲・話し合うが、誰がどの役割を担うかまとまらず、決まらない。

・ファシリテーターが中心となって役割を分担する。

4 ディスカッションをする。

それぞれの役割に従って、環境問題の改善方法についてディスカッションする。

▲・役割を上手く果たすことが出来ず、ディスカッションが成立しない。
・なかなか意見がでない。

・ファシリテーターに全てを任せるのではなく、一人一人が自発的にディスカッションに参加する。
・完璧な意見である必要はなく、まとまっていなくても良いので、積極的に意見を出す。



ワンポイント！

1. 対話形式のフレーズを覚えると、ディスカッションに役立つ。
2. ファシリテーターになると、意見をまとめる力が付くので、積極的に挑戦する。

インフォーマルなディベート

学生は、余りルールのない中で、あるテーマに賛成か反対かの意見を自由に述べる。大抵の場合、事前に準備をすることはなく、時間の制限も緩やかである。学生は、どちら側の意見につくかは自分で決めることができる。



授業手順

予想される困難

対処法

1 提示されたテーマを理解する。

先生からテーマが提示されるので、そのテーマについてインターネットなどを用いて調べ、理解する。
例：テーマ「原子力発電の使用について」

⚠・テーマが難しいと理解するのが難しい。

- ・テーマを理解するまで先生に質問する。
- ・時事問題に普段から興味を持ち、自分の意見を持つようにする。
- ・語彙力を伸ばす。

2 賛成・反対を決める。

学生は原子力発電の使用についての情報をふまえて賛成・反対に分かれる。

⚠・自分が賛成か反対かが決められない。

- ・自分の意見を明確にするために、クラスメイトと意見交換をする。
- ・意見交換で得た情報と自分の意見を基に、メリット・デメリットを整理する。

3 自分が決めた立場で、即興で意見を述べる。

例：賛成→自然エネルギーよりも安定した電気の供給が可能。
反対→震災の影響などで放射線が放出される危険を伴う。
上記のような意見を自分の考えを基に述べる。

⚠・事前準備なしで、英語で意見を述べるのが難しい。

- ・クラスメイトとディスカッションを行い、意見をまとめ、ノートをとっておく。
- ・ノートを基に発表内容を考えておく。
- ・普段から自分の意見を言えるように訓練する。



ワンポイント！

1. クラスメイトや先生とディスカッションを行うことで、多面的な視野を持つことができる。
2. 日頃から即興的に自分の意見が言えるように訓練する。
3. ディベートの流れを理解しておく。

自由討論

決められた時間内に、または時間制限なく、与えられたテーマに関するディスカッションを行う。
役割は決められておらず、学生が自由に行う。



英語力への効果



期待される学修成果

プレゼン
テーション
能力

論理的思考力

発信力

傾聴力

主体性

授業手順

予想される困難

対処法

1 テーマを理解する。

テーマは先生から与えられる場合もあるが、グループ又はペアで決める場合もある。
例：テーマ「環境問題で水質汚染の原因について」

⚠️・テーマを理解するのに時間がかかる。
・テーマがなかなか決まらない。

・日頃から時事問題に目を向ける。
・みんなが知っていそうな大きなニュースから、意見が言えるテーマを選ぶ。

2 自分の意見をまとめる。

環境問題（水質汚染）について自分の意見をまとめる。
例：プラスチックごみが人体に影響を及ぼすなど。

⚠️・自分の意見がまとまらない。

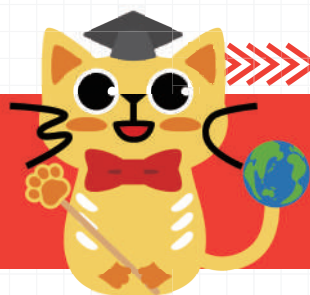
・考えを箇条書きにして頭の中を整理する。

3 まとめた意見を基に、ディスカッションを行う。

クラスメイトと自由にディスカッションする。賛成意見を述べたり、反対意見を述べたりする。決められた時間を使ってじっくりと話し合う。

⚠️・意見が出ず、中断してしまう。

・先生に助言を求める。
・意見が出ないときは、よく発言する人がファシリテーターとなる。



ワンポイント！

- 常に自分の意見を述べられるようにするために、多面的な視野で物事を見るように心掛けと、自由討論のスキル向上につながる。
- ディスカッション用のフレーズを覚えると、ディスカッションに役立つ。

ペアで考えてシェア・グループで考えてシェア

学生は、与えられたトピックに対し、意見、答え、解決案などを考え、パートナーやグループで共有する。共有することで意見などを更にまとめ、更に大きなグループやクラス全体に発表する。



英語力への効果



期待される学修成果

発信力

コミュニケーション

思考の柔軟性

授業手順

予想される困難

対処法

1 提示されたトピックについて、小グループで意見を出し合う。

例：オバマ前大統領とトランプ大統領のどちらの移民政策に対しての賛成・反対の意見を小グループ9（2～3人）で話し合う。

- ⚠️ トピックが難しい。
- 意見が出ない。

- 何でも良いので、トピックについて知っていることをクラスメイトと話し合ってみる。
- 完璧な意見である必要はなく、とりあえず意見を出してみる。

2 中グループで意見を出し合う

中グループ（4～5人）を作成し、そのグループ内で賛成反対を積極的に話し合い、意見交換をする。

- ⚠️ グループが大きくなると、発言の機会が減ってしまう。
- 多くの意見が出ることから、意見がまとまらない。

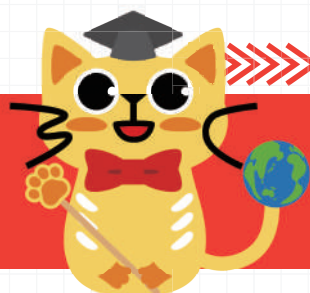
- 「What do you think, (名前) ?」などを用いて、発言出来ていない学生に発言の機会を与えてあげる。
- ディベートではなくあくまで意見であるので完全に意見を分ける必要なく、複数の意見を持っても良い。

3 クラス全体に意見を発表する。

最後に、どちらの移民政策を支持するか、グループで出た意見を基にクラス全員の前で発表する。また、他のグループの意見にも耳を傾ける。

- ⚠️ 意見がまとまらず、話せない。
- 誰が発表するのかを決めてない。

- 発表する前に、メンバー全員が重要点を箇条書きしながら整理しておく。
- 発表する前に誰が発表するのかを決めておく。
- 発表者が決まらない場合は役割分担をして発表をする。（オバマ前大統領に賛成の意見を述べる人、トランプ大統領に賛成の意見を発表する人など。）



ワンポイント！

- グループメンバーの意見や自分の意見をまとめることで要約力が身につく。
- 自分の意見を積極的に発信することで、主体的な学修に繋がる。
- ディスカッションをする際に必要なフレーズを覚えておくことで、ディスカッションをスムーズに進行できる。

質問に対するグループワーク

提示された質問に対して、グループで協力して答える。



英語力への効果



期待される学修成果



授業手順

予想される困難

対処法

1 グループで話し合う。

先生から提示された質問をグループで考える。
例：質問「日本での同性婚が認められていない理由」

- ・社会問題は複雑で、自分の意見を決められない。
- ・意見を言わない人がいる。
- ・話し合いに時間がかかる。

- ・ブレインストームし、考えを箇条書きする。
- ・意見を言わない人がいる場合は、どう思うのかを聞いてみる。
- ・積極的に意見を述べる。

2 意見をまとめる。

グループ内で意見を出しまとめる。一つにまとめる際は、みんなの意見を十分に考慮しているかも考える。

- ・まとめ役が決まらない。

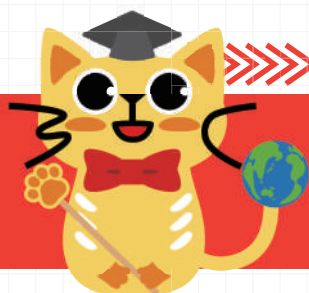
- ・質問に対する意見がまとまった学生が、率先して、グループのまとめ役となる。

3 グループ内でまとめた意見を代表者が発表する。

まとめた意見を発表する代表者を決め、クラス全体で発表する。

- ・代表者が決まらない。

- ・発表する力を伸ばす良い機会だと思い、率先して代表者となり、クラス全体で発表する。

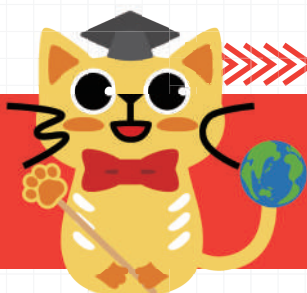


ワンポイント！

1. 自分の意見を持ち、積極的に発言すると、主体性が身に付く。
2. グループ内で意見がまとまらないときは、ファシリテーターになって、意見をまとめるようにする。

ロールプレイや即興のスキット

学生は短い演劇での役割を演じる。通常は、授業の中で台本を書き、役を演じるリハーサルを行う。また、即興スキットでは、適切な言葉や表現を使って、与えられた場面を即興で演じる。



ワンポイント！

1. 役の気持ちになると、想像力が膨らみ、体験することで新しい発見につながる。
2. 役を演じ伝えることで、自己表現力が鍛えられる。
3. 新しく覚えた表現を日常会話に活かす。

対話式講義

学生は頻繁に質問、意見、見解を述べることで義務付けられている中で、教員が講義を行う。



英語力への効果



期待される学修成果

論理的
思考力

意思疎通

傾聴力

状況把握力

柔軟性

授業手順

予想される困難

対処法

1 先生からの質問を理解する。

環境問題に関する講義で、先生が以下の質問をする。
「What do you think about global warming?」（温暖化についてどう思うか？）

- ・質問が聞き取れない。
- ・質問内容に慣れていなく難しい。

- ・質問が聞き取れない場合は、「Could you speak slowly?」「Could you say that again?」などのフレーズを使う。
- ・質問内容が理解できない場合は、「Could you use simple words?」などを使って聞き返し、質問内容をしっかり理解する。

2 先生からの質問の内容について考える。

「What do you think about global warming?」（温暖化についてどう思うか？）に対しての回答を考え、英語で意見を纏める。

- ・自分の意見がまとまらない。
- ・自分の意見を英語で表現するのが難しい

- ・自分の意見がまとまらない場合は、クラスメイトに相談する。
- ・英語が難しい場合は、思いついた単語で表現してみる。

3 考えた内容を簡潔に発表する。

「What do you think about global warming?」について考えた内容を口頭で発表する。
「I think that global warming is a serious problem.」

- ・英語で回答するのが難しい。

- ・即答できるように、回答するときに使えるフレーズ（I think that～など）を覚えておく。Oral Communication の時に配布する Speaking book を覚えておくとうい。

4 答えに対しての理由を聞かれる。

先生がなぜそう思うのか理由を尋ねる。
「Why do you think so?」
「Because increased temperature melts the glacier, and the sea level will rise.」

- ・明確な理由が分からない。
- ・理由を英語で述べるのが難しい。

- ・明確な理由が思いつかなくても、何か一つのアイデアを言ってみる。また、クラスメイトに相談してみる。
- ・完璧な文で意見を述べるのが難しい場合は、単語だけでもいいので自分の意見を述べる。

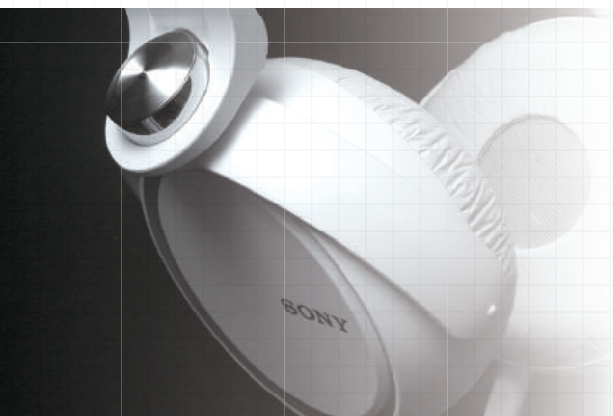


ワンポイント！

1. 対話形式のフレーズを覚えておくと、スムーズに会話ができる。
2. 質問された時に、覚えたフレーズを早速使ってみることで、記憶を定着させる。自信もつき、英語でスムーズに発言できるようになる。

アクティブ・リスニング

理解が難解な講義やリスニングの文章について、キーワードや全体的な意味を拾うよう、学生に指示をする。学生は、何度も繰り返し聞くことで、徐々に全体的な意味を聞き取ることができるようになる。



英語力への効果



期待される学修成果

知識・理解

論理的思考力

授業手順

予想される困難

対処法

1 CD や先生が作った動画の音読を聞く。

例：「ヨーロッパの人々が新世界に進出できた理由」について話している YouTube 動画や先生が作ったオリジナルの動画を聞く。

- ▲ 動画の音声スピードが速すぎてついていけない。
- ・発音が難しく聞き取れない。

- ・普段から英語の音源を聞いてスピードや音に慣れておく。
- ・質問して、先生に聞き取れない音を発音してもらう。

2 音声を聞きながら問題を解き、理解を深める。

穴埋め問題を解く。動画の音声を聞きながら、用意されたスクリプトの空欄に当てはまる単語や文章を穴埋めする。
例：Spanish () allowed Pizarro to defeat Atahualpa...

- ▲ スピードと単語の難易度が高いとスクリプトに追いつけない。
- ・単語の音がわかっていても、綴りがわからず穴埋めできない。

- ・聞き取れた部分だけでも書き出す。カタカナでも OK。
- ・綴りが分からない単語を必ずチェックする。

3 再度音声を聞き直す。

音声をもう一度聞く。スクリプトをもとに、聞き取れなかった単語、既に穴埋めした単語がまっているか再確認する。

- ▲ 何度聞いても分からない単語や音が出てくる。

- ・聞き直す前に、一度クラスメイトとの答えの確認や、先生に質問する。
- ・授業で使った教材にアクセスし、復習する。

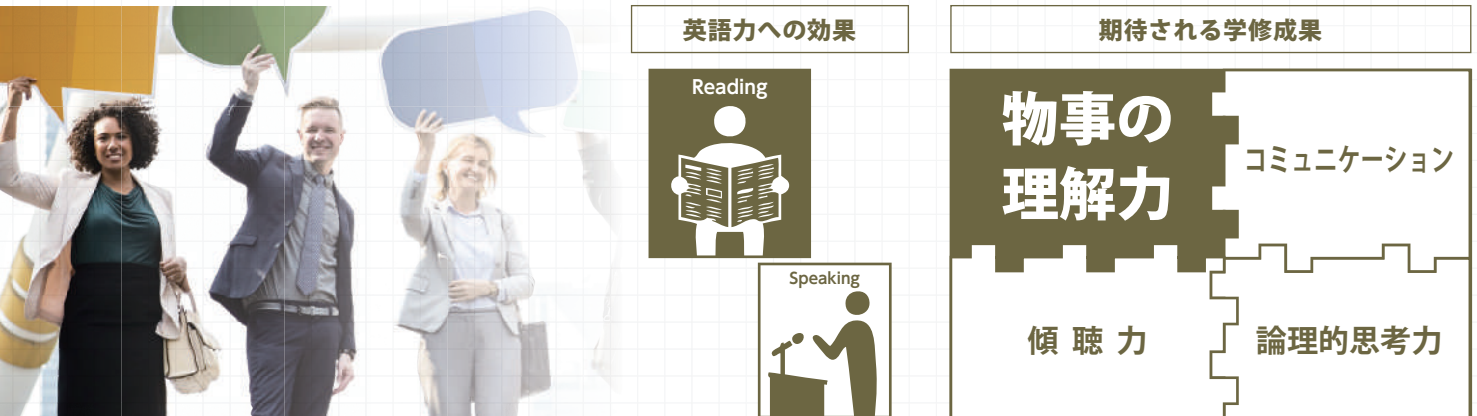


ワンポイント！

1. 聞き取れる、分かる単語をしっかり把握しておく。
2. 難しい単語や、スピードは自分で聞く練習をして慣れる。
3. 英語での発音が分からない時こそ、先生に質問する。

口頭での言い換えや要約

学生は、ある文章を口頭で言い換えたり、自分の言葉で要点を述べる。



授業手順

予想される困難

対処法

1 提示された文章を理解する。

先生が各章の内容をまとめたスクリプトを配布する。配布されたスクリプトをペアの人と声に出して読んで理解する。
例：第 18 章「新世界と旧世界の遭遇」より

▲ 世界史の専門的な内容が難しすぎて、英語での理解が難しい。

- ・ 内容が分からない時は先生に質問する。
- ・ 単語が分からないときは、1. ペア同士で教えあう。2. 生徒同士で分からなかったら先生に質問してみる。

2 要約するために要点を書き出す。

そのスクリプトを基に、要点をプリントに書き出してみる。

▲ 情報が多く、要点が絞れず、簡潔に要約できない。

- ・ 要点を掴むために、文章の構成（イントロ、ボディ、結論）を考えてみる。
- ・ 先生の要約の構成も参考にしてみる。

3 自分の言葉で文章を作る。

書き出した要点をもとに、18 章について自分の言葉でまとめ、ペアの人とお互いの要約を発表しあう。

▲ 自分の言葉でまとめようとしても、単語や文法を気にして文章が完成しない。

- ・ 先生のスクリプトを基に、文章で使われている単語の類語や似ている接続詞などを使って文章を作ってみる。
- ・ Speaking handbook には要約でよく使われる接続詞や表現が載っているので活用する。



ワンポイント！

1. 自分が使いやすいフレーズを覚えておくと、言い換えに役立つ。
2. 先ずは短い文章の要約から始め、徐々に長い文章の要約に挑戦していくと、要約することに慣れる。
3. Speaking handbook を活用する。

非言語での言い換えや要約

学生は、言語以外の媒体（例えば、図、グラフ、チャート等）で、講義や文章の要点を言い換えたり、まとめたりする。



英語力への効果



期待される学修成果

論理的
思考力

数量的スキル

知識・理解

ICT スキル

問題解決力

授業手順

予想される困難

対処法

1 文章や講義の内容を理解する。

先生から統計分析のタスクとしてアイスクリーム屋の一年間の売り上げのデータを渡される。
先生からの指示内容、講義や文章を理解する。

▲・タスク内に記載されている語彙が難しい。

- ・自分で調べる。調べても分からない場合は先生に質問する。
- ・グラフ作成に使う用語を英語で予め覚えておく。

2 どのように要約するかを考える。

アイスクリームのフレーバー毎の売り上げを統計分析する。
どのような図や表がその統計分析にふさわしいかを考える。

▲・非言語化するのが難しい。（適した図や表などが分からない。）

- ・先生に相談する。
- ・日常生活で目にするニュースやチラシなどで使用される図解に興味を持つ。

3 要約した内容を図や表などを使って、非言語的に表す。

要約した内容をグラフやチャートなどを用い表現する。

▲・図や表の作成に時間かかる。

- ・クラスメイトに相談する。
- ・クラスメイトと協力し、短時間で作成できるようにする。
- ・日常生活で見かける図などを意識して見る。
- ・以前作成した図や表を復習するように心掛ける。

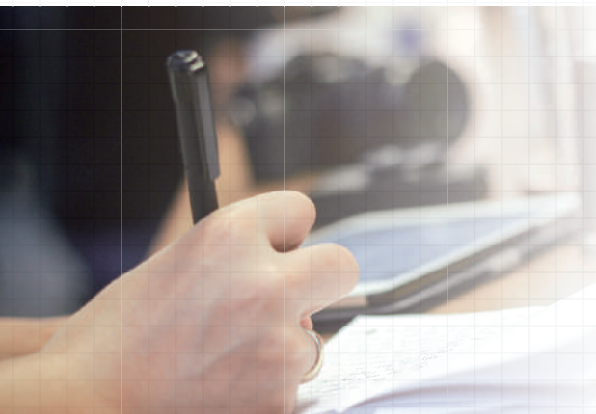


ワンポイント！

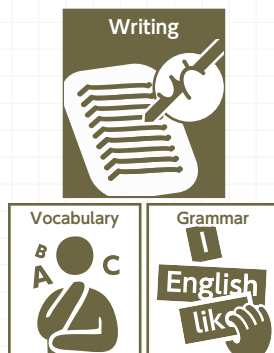
1. 要約するためには、タスクをしっかりと理解する。
2. 図や表等を繰り返し作成して慣れる。
3. 非言語化はプレゼンテーションに応用できるのでしっかりと取り組む。

ジャーナル・ライティング

学生は、授業や課題に対する自分の考え、勉強法、成功や失敗などの様々なトピックについて書く。ここで言うジャーナルとは、振り返りに重点をおいた記述で、文献のリサーチ等は余り必要としない。教員がフィードバック、編集、評価などをする場合もある。スラスラと書く練習なので、通常成績はつけず、文法もチェックしないことが多い。



英語力への効果



期待される学修成果



授業手順

予想される困難

対処法

1 授業内容についてショートエッセイを書く。

先生がテーマを発表する。
例：授業で扱った内容から「9.11 同時多発テロ」について

▲ テーマが急に決まるので、書きたい内容や情報を整理しきれない。

出されたテーマに沿って、頭の中で構成を浮かべてみる

- 例：1 「9.11」とは何か
2 何が原因か
3 誰が行ったのか など

2 思い付いた事を自由に書いていく。

授業で習った「9.11」に関する事を考え、同時多発テロに至った背景や、影響を受けた被害者やその家族について、10 分間ノートに書く。

▲ テーマによっては書きやすいもの（例：自分の趣味）もあるが、「9.11」などは内容が難しいので 10 分間の中で書きながら文章構成するのが難しい。

- ・書く前に、構成を練る時間がある場合が多いので（約 2 分）、その時間を使って、書きたいことを箇条書きしてみる。
- ・テーマによっては、10 分間は短いので、制限時間に注意しながら書く。

3 書き終わったエッセイにフィードバックをもらう。

「9.11」について、先生からコメントをもらう。（ここでは、単語チェックはあるが、あまり文法はチェックされないことが多い。）

▲ 文章構成についてのフィードバックをもらったとしても、次はどう活かせばいいのかわかりにくい。

・分からないときは先生に聞きに行く。例と一緒に文章の作り方について説明してもらえる。

・MIC の「Writing handbook」を参照し、Writing の細かい説明を読み、復習に使う。

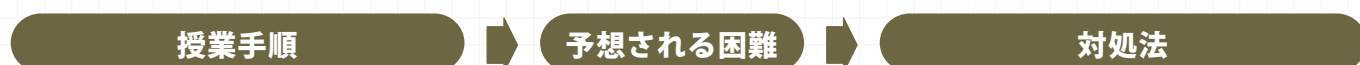
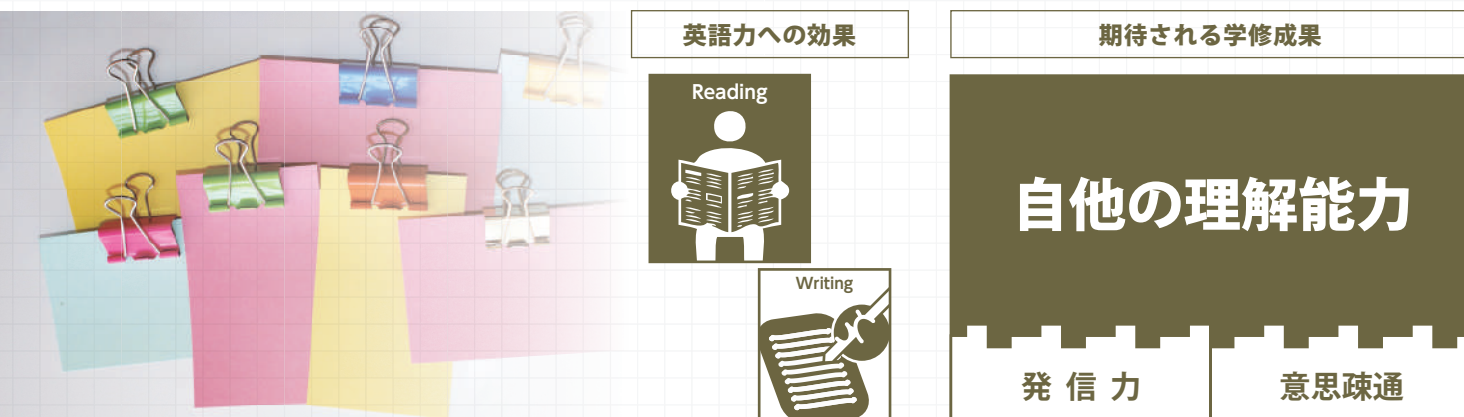


ワンポイント！

1. ジャーナルをスムーズに書くためには、授業中のメモが重要！
2. 書く内容や書き方が分からない場合は、先生やクラスメイトに相談し、助言をもらう！
3. Writing handbook を活用する！

作文についての筆記による相互評価

学生は、お互いの作文を評価する評価シートを記入した後、パートナーやグループに対し、評価結果の口頭説明をする。



1 テーマが提示される。

先生がテーマを与えるので、それに対しての自分の考え等を書く。
例：テーマ「アメリカの歴史」

△ 理解するのに時間がかかる。
具体的なことが分からない。

・先生に助言をもらう。
・クラスメイトと話し合う。

2 テーマに沿って情報を集める。構成を練る。

テーマについての資料をインターネット・本から探し、必要な情報をピックアップしておく。集めた情報を基に、構成を練る。

△ 情報が多すぎる。
・情報が少なすぎる。

・書きたいことを明確にして、書きたいことに沿って情報を集める。
・構成（流れ）を考える。構成に沿って情報を整理する。
・クラスメイトや教員に相談する。

3 エッセイを作成する。

構成に沿って、エッセイを書きあげていく。

△ エッセイを上手くまとめることが出来ない。

構成に沿って、書きたい事を箇条書きして、整理する。

4 授業内でクラスメイトと見せ合う。

書いたエッセイをクラスメイトに見せ、自分も他のクラスメイトのエッセイを読む。

△ 英語を読むのに時間がかかる、又は内容が難しい。

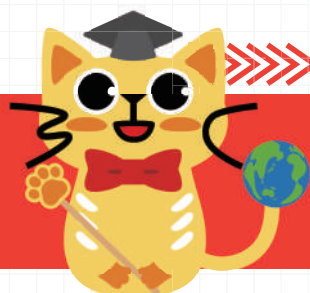
相手に質問して、簡単に説明してもらう。

5 相手の作文について、フィードバックする。

クラスメイトのエッセイについての感想や意見を自由に書く。クラスメイトからフィードバックを貰う。

△ どのようにフィードバックを書けばよいかわからない。

・良かった点と改善点を箇条書きにする。
・相手の作文の改善に役立つフィードバックをする。



ワンポイント！

1. 日頃から自分の意見をまとめるようにしておく。
2. 英語には色々な表現方法があり、使う人によっても変わるので普段から色々な英語の文章に触れておく。

編集後記

宮崎国際大学は、開学以来、アクティブ・ラーニングによるクリティカル・シンキング能力の育成を目指した英語によるグローバル教育を提供してきました。本学の大学教育再生加速プログラム（AP）事業は、「先進的に実施してきた授業内でのアクティブ・ラーニングを発展させ、e ポートフォリオ上で学修成果を可視化し、学生の主体的な学修を効果的に促進する」取組となっています。しかし、教育内容やシステムが向上しても、教育を受ける側の学生が、主体的に学修に取り組まないと効果は出ません。学生は、授業内で展開される様々なアクティブ・ラーニングに対し、自らが目的意識を持って積極的に取り組むことが求められています。

そこで、本 AP 事業の取組を、学生の視点から効果的に享受し活用するための方策を考える AP 学生グループを立ち上げました。主体的学修を促進するためにはどうすればいいのか、学生自身が検討しています。この学生グループの活動の一環として、アクティブ・ラーニングの授業への効果的な取組方法をまとめた本冊子を発行しました。本冊子には、アクティブ・ラーニングの授業に対する効果的な受講方法、予想される困難とその対処法、そして、得られる学修効果が、実際に授業を受けている学生の視点でまとめられています。新入生や在学生在が本冊子を一読することで、より主体的な学修を実現し、更なる学修効果を得て、多様化する社会で活躍できるグローバルな人材に育ってくれたらと思います。

大 関 智 史

企画・編集：アセスメントオフィサー 大 関 智 史

編集：AP 事務補佐 西 中 雅 栄

発 行

宮 崎 国 際 大 学 AP 事 務 局

〒889-1605

宮崎県宮崎市清武町加納丙 1405 番地

TEL：0985-85-5931

本書に記載された記事の無断転載・複製を禁じます

